

授業科目 NO. 804 助産診断技術学 I (妊娠期)

Midwifery Diagnosis and Skills I (Pregnancy Period)

授業の形態：講義

単位数(時間数)：2単位(30時間)

開講年次・学期：3年次・後期

必修・選択の別：選択・助産師選択コース必修

キーワード：妊娠期、妊婦健康診査、助産診断、助産ケア

1 金沢医科大学看護学部の到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学習目標

1) 一般目標 (GIO)

妊婦の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、妊娠各時期の助産診断を行うことで、正常・異常の妊娠経過・妊婦のニーズに応じた支援を考察することができる。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 妊娠各期の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。(②)
- (2) 妊婦健康診査の必要性とその内容について説明できる。(②)
- (3) 妊娠各期の助産診断から、妊娠各期における必要な保健指導が説明できる。(②)
- (4) 妊娠期の助産診断を行い、妊婦のニーズに応じた助産ケアと予防的支援、保健指導計画を立案し評価できる。(②③)

3 学習内容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	50%
実習成績	
レポート	30%
授業態度	
小テスト	20%
口頭試問	
その他（課題）	
合計	100%

（特記事項）

5 教 育 担 当 者

科目責任者：三反崎 宏美（母性看護学・助産学）

准 教 授 山崎 智里（母性看護学・助産学）
 講 師 三反崎 宏美（母性看護学・助産学）
 助 教 林 智美（母性看護学・助産学）
 助 手 大嶋 舞香（母性看護学・助産学）

6 教育担当者の実務経験

担当教員は、看護師・助産師として周産期医療機関における実務経験を有している。

7 教 科 書

- 1) 森 恵美（編）：助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会
- 2) 我部山キヨ子：助産学講座 3、母子の健康科学、医学書院
- 3) 我部山キヨ子 / 武谷雄二：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 妊娠期、医学書院
- 4) 平澤 美恵子他（監修）：新訂版写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ
- 5) 北川真理子、内山和美（編）：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、南江堂

8 推 薦 参 考 書

- 1) 公益法人 日本産科婦人科学会、公益法人 日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020、公益法人 日本産婦人科学会事務局
- 2) 井上裕美他：病気が見える Vol.10 産科、Medic Media
- 3) 藤井知行（編）：週数別 妊婦健診マニュアル第2版、医学書院
- 4) マースデン・ワグナー著：井上裕美他訳：WHO 勧告にみる望ましい周産期ケアとその根拠、ディカ出版
- 5) 我部山キヨ子、大石時子（編）：アセスメント力を磨く 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版、医学書院

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学習内容

- 1) 授業 1 コマにつき、事前学修・事後学修として計 180 分程度必要である。
- 2) 基礎となる母性看護学で学修した妊娠期に関する知識—特に妊婦健康診査に関わる知識の復習を行っておくこと。また、助産診断立案過程で必要となる知識は教科書、推薦参考書等を基に幅広い知識を得ることが必要である。学修内容はノートにまとめ、理解できない内容については、教員の指導を受けて学修を進めること。また、授業の進め方や学修内容については授業毎に説明する。
- 3) 妊娠期の診断及びケア等の実施に必要な知識について、
 - ・公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産科婦人科医会(編)産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 (https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2020.pdf)
 - ・エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2020 (https://www.jyosan.jp/uploads/files/journal/JAM_guideline_2020_revised20200401.pdf) にアクセスして、コンセンサスが得られた適正な標準的助産診断・管理法を理解し、ノートにまとめておくこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 小テストについては、次に授業で解説を示し、フィードバックする。
- 2) 助産診断や事例展開に関しては、作成過程において授業時間内にフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 事前学修をしっかりとって授業に臨むこと。
- 2) 作成したレポートは、実習時に活用するので、整理しておくこと。

12 オフィスアワー等

質問は随時可。ただし、事前にメール等で都合を確認することが望ましい。

三反崎 E-mail : mitasaki@kanazawa-med.ac.jp

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	11月12日(火)	1	講義	妊娠初～中期の身体的・心理社会的特徴(妊娠前の身体状況や個々の生活背景が妊娠に及ぼす影響)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	2	11月12日(火)	2	講義	妊娠初～中期の身体的・心理社会的特徴(GDM・体重コントロールの考え方・妊娠貧血と食生活)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	3	11月13日(水)	1	講義	妊娠初～中期の妊婦健康診査と助産診断(胎児の発育と発達)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	4	11月13日(水)	2	講義	妊娠初～中期の助産診断とケア		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	5	11月19日(火)	1	講義	妊娠初～中期の保健指導	小テスト	母性看護学・助産学	三反崎講師
後	6	11月19日(火)	2	講義	妊娠後期の身体的・心理社会的特徴(妊娠後期の身体の変化・分娩が近づいた兆候)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	7	11月20日(水)	1	講義	娠後期の身体的・心理社会的特徴(家族の変化・パースプラン)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	8	11月20日(水)	2	講義	妊娠後期の身体的・心理社会的特徴(妊娠後期の伴う合併症について)		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	9	12月24日(火)	1	講義	妊娠後期の妊婦健康診査と助産診断		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	10	12月24日(火)	2	講義	妊娠後期の助産診断とケア	小テスト	母性看護学・助産学	三反崎講師
後	11	12月25日(水)	1	講義	妊婦のアセスメントと予防的支援1		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	12	12月25日(水)	2	講義	妊婦のアセスメントと予防的支援2		母性看護学・助産学	三反崎講師
後	13	1月08日(水)	1	演習	妊婦への個別ケア・指導計画の立案1		母性看護学・助産学	三反崎講師,山崎准教授,林助教,大嶋助手
後	14	1月08日(水)	2	演習	妊婦への個別ケア・指導計画の立案2		母性看護学・助産学	三反崎講師,山崎准教授,林助教,大嶋助手
後	15	1月15日(水)	1	演習	保健指導案作成	レポート	母性看護学・助産学	三反崎講師,山崎准教授,林助教,大嶋助手